

令和6年度 楡木小学校 学校評価

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ わからない ■

(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		考察
1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進 学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。 (感動・感謝・郷土愛、いのちを大切に作る心、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など)	2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進 学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。	「1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進」の項目では、保護者、児童、教職員ともに肯定的評価が9割を超えていた。「心がやげ月間」での取組に加え、毎月の「自由参観日」で積極的に学校の取組を家庭や地域に知らせてきたことへの評価を得られたと捉えている。「2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進」では、教職員の肯定的評価が100%に近いのに対し、児童と保護者は8割程であった。校内研修等でさらにこどもが自ら考え、取り組む授業づくりについて研修を深め、児童や保護者も実感がもてるように取り組んでいく必要がある。
(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		
3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進 学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりするこどもの育成に、取り組んでいると思いますか。(児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイスライ(中学校)など)		「3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進」では、教職員に比べ児童、保護者の肯定的評価が低い傾向がある。学年間で分析すると地域のごみ調べから環境フェスにつなげていった5年生は高評価であった。他学年も総合的な学習の時間を中心に福祉や地域学習に取り組んではいるが、児童の主体性や地域社会への貢献までは意識化につながっていないところもあると考えられる。評価項目「2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進」の結果も踏まえ、総合的な学習の時間や教科間で連携を図り、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり行動したりする学習に取り組んでいきたい。
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
4、5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。	学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていますか。	「4 個別最適な学び」では、教職員の肯定的評価が9割程であるのに対し、児童と保護者は8割に満たない結果であった。特に保護者の「わからない」の回答が2割近くであった。学校の取組を保護者に積極的に周知していく必要がある。「5 協働的な学び」では、児童、保護者ともに肯定的評価が8割を超えていた。今後もICTも活用しながら協働的な学びを推進していきたい。
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実 学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。	7 インクルーシブ教育の推進 学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。	「6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実」では、教職員は9割、児童、保護者は8割の肯定的評価であった。「7 インクルーシブ教育の推進」では、教職員は8割、児童と保護者は7割程の肯定的評価であった。 今年度から縦割り班での活動を始め、朝のボランティアや掃除時間、「にれのきタイム」でのふれあい遊びなど学年を超えた活動やソーシャルスキルトレーニングなどのこども同士のつながりを作る取組を始めている。こども同士のつながりは一人一人を尊重した教育の基礎となっていくものなので来年度も取組を継続していきたい。

(3) 最適な教育環境の整備		
8 安全・安心な学校づくりの推進	9 地域や家庭と連携した教育環境の整備	
学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。	学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。	「8 安心・安全な学校づくりの推進」では、教職員、児童、保護者とも9割超の肯定的評価であった。委員会活動や避難訓練の取組等児童主体の活動や今年度から始まった地域の下校時見守り活動といった取組が意識の向上につながっていると考えている。「9 地域や家庭と連携した教育環境の整備」では、保護者の肯定的評価が9割程であった。昨年度から毎月「自由参観日」を設定して、学校の様子を広く公開している。今年度も継続して取り組んでいて、保護者にも定着してきたことが肯定的評価につながっていると捉えている。来年度も引き続き取組を継続していきたい。

(4) こどものいのちと権利の擁護		
10 こどもの最善の利益を守る環境づくり		
学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。		「10 こどもの最善の利益を守る環境づくり」では、教職員の肯定的評価が9割程であるのに対し、児童と保護者の肯定的評価が7割程であり、意識の差が見られる。教職員は今年度校内研修で「児童の権利条約」について学んだことも評価につながっていると思われる。今後は、こどもや保護者も「児童の権利条約」や「こども基本法」について学ぶ機会を設け、こどもや保護者の声を生かす学校づくりについて考えていきたい。

(5) 榎木小学校項目		
11 粘り強さ	12 失敗の肯定的受け止め	
学校は、こどもがうまくいかなくてもあきらめずにやりとげようとするように取り組んでいると思うか。	学校は、こどもが自分のまちがいや失敗を素直に受け入れられるように取り組んでいると思うか。	11から13までは本校の独自項目である。「11 粘り強さ」では、肯定的評価の中でも児童の「そう思う」の評価が半数近くで、あきらめずに最後までやり遂げようと取り組んでいると感じている児童が多かったことを評価している。「12 失敗の肯定的受け止め」では、児童と保護者の肯定的評価が7割程であった。普段から授業においても正解だけを取り上げるのではなく、正解以外の意見が学び合いにつながりやすいため、今後も授業をはじめ日常生活の場でもこどものまちがいや失敗を次の活動につなげていくように取り組んでいきたい。「13 多様性の受け止め」では、教職員、児童、保護者も肯定的評価が8割を超えていた。多様性の受け止めは、教職員のこどもの見方考え方が大切になってくる。今後も校内研修等で学ぶ機会を持ち、教職員のこどもの見方考え方を深めていくように取り組んでいきたい。
13 多様性の受け止め		
学校は、こどもがどんな友達とも協力するように取り組んでいると思うか。		

来年度の具体的な取組について

本校は今年度から校内研修でESDに取り組み、ESDカレンダーを作成して総合的な学習の時間や教科間の連携を図りながら学習を進めてきた。来年度も継続してESDに取り組むことでこどもの学習への主体性や学校生活や地域生活をよりよくするこどもの育成につなげていきたい。また、こども一人一人を尊重した教育の推進では、多様な教育ニーズに応じた支援やインクルーシブ教育の充実が本校の独自項目「13 多様性の受け止め」にも関わってくる内容である。まずは、教職員のこども観の転換を図りこどもの見方考え方を深めるために定期的に研修を入れたり、家庭や地域にも学校の取組を周知したりして推進していきたい。さらに、「こどもまんなか社会」の実現に向け、こどもも大人も「児童の権利条約」や「こども基本法」について学ぶ機会を設け、こどもや保護者の声を生かす学校づくりについて考えていきたい。

小中学校関係者評価

「8 安全・安心が学校づくりの推進」に関しては、今年度初めて実施したスタントマンによる交通安全教室は実際に見て学んだ効果は大きいと思う。リアルな体験と映像等で学ぶ体験それぞれによさはあるので、今後も効果的な方法を考えてほしい。全体的に保護者から「わからない」の回答があったことに関しては、保護者の立場から教育活動が見えにくいところがあることは理解できるので、アンケート項目の中に参観日や行事など学校に来校した回数を入れて保護者の学校への意識づけを図るなど、学校評価を行うことで学校と保護者相互に高め合うような内容になっていくとよい。

こどもとのコミュニケーションは家庭での関わりが大きい。地域で見えて家庭の多様化を感じることも多い。個々の家庭が中心になっているところもあるので家庭の教育力を高める上でも家庭と学校、地域、コミュニティへとつながりや関わりが増えてほしい。